

2023年5月11日

## 2023年度 鉄道事業設備投資計画

**でかける人と、はたらく人の満足度向上へ  
安全追求・環境対策・魅力向上・技術革新へ総額251億円**

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：喜多村 樹美男）は、アフターコロナを見据え、より一層の安全・安定輸送の実現、環境負荷の削減を目指すとともに、おでかけしたくなる駅・まちづくり、および次世代に向けた技術革新を推進していきます。加えて、それら事業の根本にある職場環境の改善を行い、お客さまと従業員の満足度向上を目指すべく、2023年度は総額251億円の鉄道事業設備投資を実施します。

## 《2023年度 鉄道事業設備投資の概要》

**1. 「より安全な」・「より快適な」設備の追求**

(1) より安心してご利用できるバリアフリー設備へ

- ホームドア整備、列車運行情報提供システム整備、段差解消・内方線付点状ブロック整備、エレベーター・エスカレーター更新

(2) より安全な踏切へ

- 高規格な踏切支障検知装置の新設・更新、特殊信号発光機のATS連動化、踏切異常検知システムの新設

(3) 車内の安全確保・防犯対策、事故分析等への活用へ

- 車内防犯カメラの整備推進
- ドライブレコーダーの全編成導入

**2. より環境にやさしい西武鉄道へ**

- 40000系車両増備、省エネルギー性能の高い走行機器への更新、サステナ車両導入、LED照明の導入などにより、CO<sub>2</sub>排出量削減へ

**3. おでかけしたくなる駅・まちづくりの推進**

(1) 魅力向上・利便性向上で訪れたくなる沿線へ

- 池袋駅・豊島園駅のリニューアル、西武新宿駅 新たな地下通路整備の計画

(2) 次世代新宿線に向けた連続立体交差事業の推進

- 【事業中】中井～野方駅間、東村山駅付近 【準備中】井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間

**4. 次の時代を見据えた技術革新への基盤づくり**

- 無線式列車制御（CBTC）システム実証試験の実施、新運行管理システム、転てつ器監視装置の導入等により、将来のスマートな鉄道運営へ

**5. 働く社員の職場環境の改善・整備**

- 働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

詳細は、別紙のとおりです。

## 【別紙】

### 1. 「より安全な」・「より快適な」設備の追求

ご利用いただくお客さまと西武線沿線にお住まいの方々の安全な暮らしを最優先に考えた安全対策投資に重点をおくとともに、今まで以上に快適にご利用いただけるサービスの提供を目指します。

#### (1) より安心してご利用できるバリアフリー設備へ

ホームドアをはじめとしたバリアフリー設備の整備を促進すべく、鉄道駅バリアフリー料金制度を導入し、2023年3月18日(土)より料金の収受を開始しました。本制度を活用し、バリアフリー設備の整備を推進します。

#### ・ホームドア整備

当社では、1日あたりのご利用者10万人以上※の6駅23番線にホームドアを整備しておりますが、10万人未満の駅も含めてホームドア整備を推進します。直近では以下の駅へのホームドア整備に着手し、各駅の稼働予定時期は決まり次第お知らせします。

※ご利用者数は2019年度実績を基準としております。

#### 【整備に着手する駅 8駅23番線】

池袋駅(1番・7番・特急ホーム)、中村橋駅、富士見台駅、練馬高野台駅、石神井公園駅、新桜台駅、東村山駅、新所沢駅

#### 【整備に向けた検討を進める駅 2駅6番線】

花小金井駅、小平駅

※下線箇所は、新たに整備着手・検討を公表する駅です。



所沢駅ホームドア

#### ・列車運行情報提供システム整備

当社線および他社線で運転見合わせなどの輸送障害が発生した際、文字情報と路線図によりわかりやすく運行情報を提供するシステムです。海外からのお客さまにも対応できるように、日本語の他に英語・中国語・韓国語の計4か国語で情報を発信します。2023年度は入間市駅への新設のほか、老朽化した設備の更新を実施します。



列車運行情報提供システム ディスプレイ

#### ・段差解消・内方線付点状ブロック整備

当社では1日あたりのご利用者3千人以上の駅でのバリアフリー化(段差解消)が完了していますが、3千人未満の駅のバリアフリー化も進めます。2023年度は吾野駅にてスロープ設置とホーム上の内方線付点状ブロックの整備を行います。

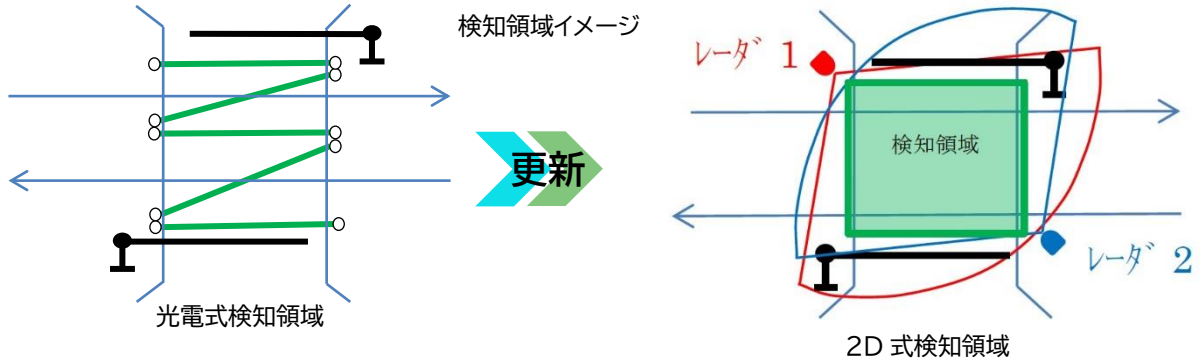
#### ・エレベーター・エスカレーター更新

老朽化したエレベーター・エスカレーターの更新を加速推進します。今年度はエレベーター3台、エスカレーター10台の更新を実施します。

## (2) より安全な踏切へ

### ・高規格な踏切支障検知装置の新設・更新

踏切支障検知装置の高規格化を進め、従来の「線」で検知する方式（光電式）から、「面」で検知する方式（2D式）に更新することにより、検知能力を向上させて安全対策を強化します。今年度は新設2カ所・更新10カ所、計12カ所の踏切へ設置予定です。

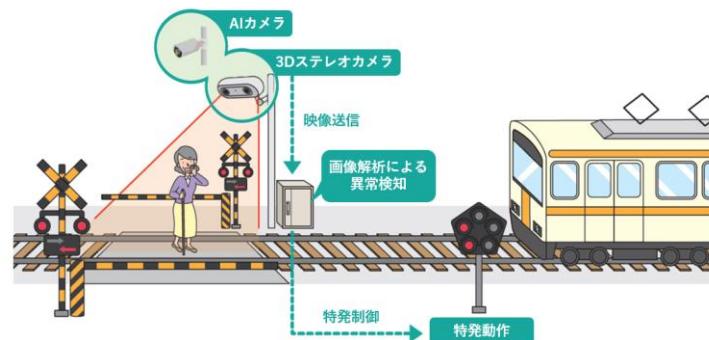


### ・特殊信号発光機ATS連動化

踏切安全対策として、特殊信号発光機（踏切内の異常を運転士に知らせる信号）とATS（自動列車停止装置）を連動させ、事故防止を図ります。昨年度までに11カ所の踏切への設置が完了しており、今年度はリスクの高い踏切から順次設置していきます。

### ・踏切異常検知システムの新設

踏切内にとり残された「人」を画像解析により検知し列車に知らせる「踏切異常検知システム」を開発し、2022年度は5カ所の踏切に設置しました。今年度は2カ所の踏切に新設します。



## (3) 車内の安全確保・防犯対策、事故分析等への活用へ

### ・車内防犯カメラの整備推進

車内の防犯対策・安全性向上のため、車内防犯カメラの整備を推進します。今年度は車内防犯カメラを設置した4000系通勤車両を4編成40両増備するほか、既存車両への整備に向けた準備を進めます。車両新造と既存車両への搭載により、一層の整備率向上を目指してまいります。



車内防犯カメラ

### ・ドライブレコーダーの全編成導入

事故や列車運行への妨害行為等発生時の状況確認および原因究明を目的に、列車運行中の前方および後方映像を記録するドライブレコーダーの全編成への導入に向け、今年度より設置を進めてまいります。

## 2. より環境にやさしい西武鉄道へ

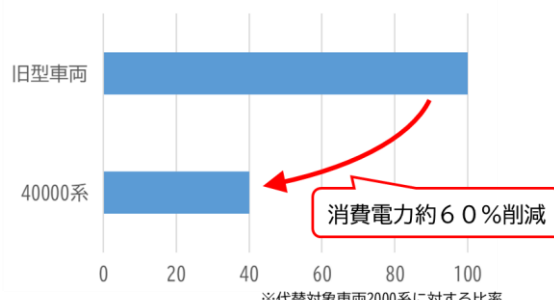
西武グループでは、グループにおける社員一人一人の行動指針である「グループビジョン」に基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを「サステナビリティアクション」として積極的に推進しています。更なる地球温暖化防止への貢献に向け、西武グループ全体でのCO<sub>2</sub>排出量を2030年度までに2018年度比で46%削減するという環境負荷削減目標を設定しています。西武グループCO<sub>2</sub>削減目標達成に向けた取り組みとして、引き続き省エネルギー化などの環境対策を推進します。

### ・40000系車両増備（4編成40両）

最新技術のモーターの採用などにより、旧型車両より省エネルギー化・低騒音化した40000系通勤車両を4編成40両増備します。40000系車両は、車内防犯カメラのほか、車いす・ベビーカーをご利用のお客さまにも便利な「パートナーゾーン」も備えており、安全性・快適性向上も実現します。



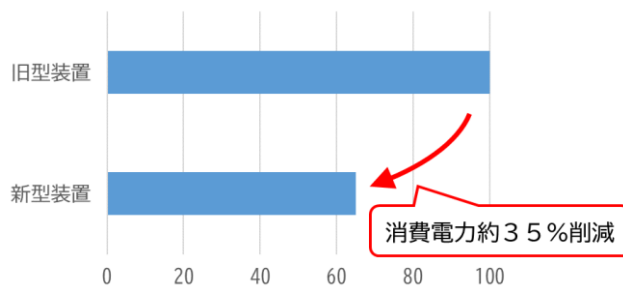
車両外観



40000系増備による消費電力削減効果

### ・省エネルギー性能の高い走行機器への更新

既存車両も、より省エネルギー性能の高いVVVFインバータ制御装置および電動機への更新を行うことで、運転用電力の削減を目指します。今年度は6000系1編成（10両）の更新工事を実施します。



走行機器更新による消費電力削減効果

### ・サステナ車両※導入

車両新造や既存車両の機器更新に加え、省エネルギー化を加速推進すべく、環境負荷の少ない「サステナ車両」の導入を予定しており、現在準備を進めています。

※VVVFインバータ制御車両等の環境負荷の少ない他社からの譲受車両を指す（当社独自呼称）

### ・LED照明の導入

LED照明は消費電力が低くCO<sub>2</sub>排出量削減の効果が期待できるため、駅や車両への導入を進めています。今年度も引き続き、照明器具の取替に合わせてLED照明を導入します。

### 3. おでかけしたくなる駅・まちづくりの推進

2023年6月16日（金）「ワーナー ブラザース スタジオツアー東京 - メイキング・オブ・ハリウッド・ポッター」（以下、「スタジオツアー東京」）の開業に向けて、池袋駅および豊島園駅のリニューアルを行いました。また、連続立体交差事業の推進のほか、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプロムナードを結ぶ新しい地下通路の整備に向けた準備など、次世代新宿線に向けたまちづくりを進めていきます。

#### (1) 魅力向上・利便性向上で訪れたくなる沿線へ

##### ・池袋駅・豊島園駅のリニューアル

「スタジオツアー東京」の開業に合わせて、豊島園駅の新駅舎が2023年4月25日（火）より使用開始となり、あわせて池袋駅のリニューアルが完成しました。

「スタジオツアー東京」の開業に向け、沿線自治体ならびに「スタジオツアー東京」を運営する「ワーナー ブラザース スタジオジャパン合同会社」とともに、引き続き豊島園駅周辺エリアの活性化に取り組みます。



豊島園駅 新駅舎



池袋駅 ホーム

【参考】池袋駅と豊島園駅のリニューアルが完成します！

[https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230411\\_renewal/](https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230411_renewal/)

##### ・西武新宿駅 新たな地下通路整備の計画

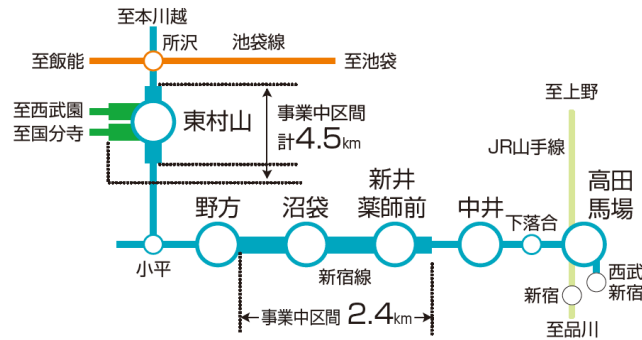
2021年度に、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプロムナードを結ぶ新しい地下通路が、新宿区により都市計画決定されました。これを受け、引き続き本通路の早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めます。

本通路の開通により、西武新宿駅をご利用のお客さまの新宿駅（JR 線・東京メトロ丸ノ内線）との乗換利便性および、まちとまち、駅とまちの回遊性の向上を目指していきます。



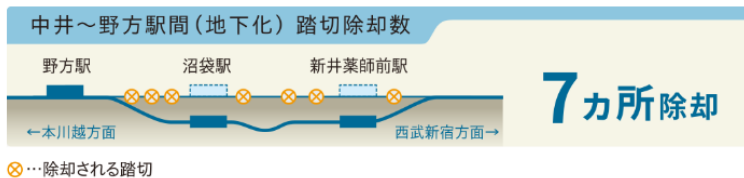
位置図

## (2) 次世代新宿線に向けた連続立体交差事業の推進



### ・中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

2011年8月に都市計画決定され、2013年4月に事業認可を取得、2014年1月に工事に着手しました。今年度は引き続き、駅部・一般部の仮設工事および駅部の掘削工事を行います。この事業が完成すると7カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られるとともに、連続立体交差事業を契機とした駅前広場などの整備が促進されることで、快適なまちづくりに寄与します。

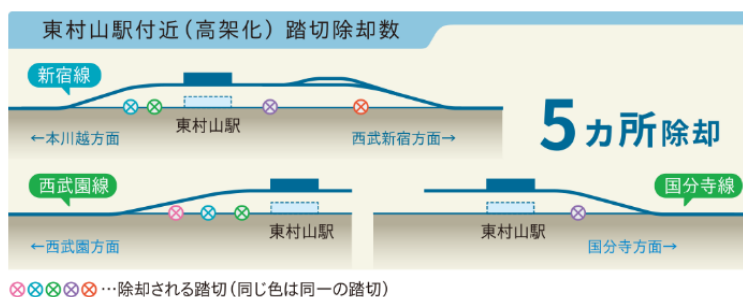


【参考】新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業

<https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/naka-inogata/>

### ・東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

2012年10月に都市計画決定され、2013年12月に事業認可を取得、2015年1月に工事に着手しました。今年度は引き続き、新宿線他の駅部・一般部の高架橋構築工事や新宿線の仮線路切替工事を行います。この事業が完成すると5カ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。



【参考】新宿線東村山駅付近連続立体交差事業

<https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/higashimurayama/>

### ・井荻～西武柳沢駅間および野方～井荻駅間、早期事業化に向けた準備

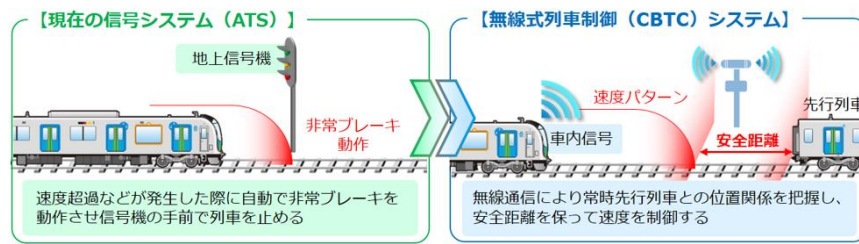
井荻～西武柳沢駅間は、2021年11月に東京都により高架方式で都市計画決定されました。2022年より用地測量に着手しています。野方～井荻駅間は、2016年3月に東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられました。引き続き、連続立体交差事業の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し、新宿線沿線の安全性・快適性向上を推進します。

#### 4. 次の時代を見据えた技術革新への基盤づくり

新技術、新システムを導入し、スマートな鉄道事業の運営と自動運転などの技術革新の基盤構築を目指します。

##### ・無線式列車制御（CBTC）システム実証試験

安全性の向上を図ると共に、省設備化による維持コストの削減と信頼性の高いシステム構成による故障リスクの低減によりスマートかつ安定的な鉄道運営の実現を目指し、多摩川線での無線式列車制御（CBTC）システムの実証試験に着手します。2024年度初頭の走行試験に向け、準備工事を進めます。



【参考】西武線全線に無線式列車制御システム導入を目指し、多摩川線で無線式列車制御（CBTC）システムの実証試験を実施します

[https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230118\\_cbtc/](https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230118_cbtc/)

##### ・新運行管理システムの導入

現行運行管理システムの老朽を機に、機器集約を図った新たなシステムを導入します。従来、司令所と乗務員間では、運転整理や運転規制の情報を音声により通告していましたが、新システムでは文字情報による通告を併用し、より確実なコミュニケーションを実現します。加えて自動放送装置による旅客案内の内容を充実させ、お客さまの利便性向上を図ります。2023年度は池袋線系で導入します。



※運行管理システム：ダイヤに基づき信号・分岐器・駅の案内などを一括制御するシステム

##### ・転てつ器監視装置の導入

転てつ器の状態を遠隔で監視する転てつ器監視装置の整備を推進します。常時監視により故障の予兆を把握することでCBM※を実現し、より一層の安定輸送に貢献します。

※CBM (Condition Based Maintenance)：設備の状態や劣化状況に応じ効率的に実施するメンテナンス

#### 5. 働く社員の職場環境の改善・整備

従業員が働きやすい・働きがいのある環境を整え、将来を担う人財を確保する観点から、職場環境の整備を行います。現業施設の建て替え、宿泊施設の個室化、駅の従業員用休憩室のリニューアル等により、従業員のプライバシー確保や労務環境の改善を図ります。

##### ◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. (04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

【営業時間：全日9時～17時（12/30～1/3を除く）】

以上